■　学校の共通目標

（様式1）

令和２年度学力向上のための重点プラン【小学校】　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　新宿区立東戸山小学校

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **授業作り** | 重　点 | 多様な学習形態を、児童一人一人の実態や課題に即して計画的に取り入れるとともに、形成的な評価を効果的に指導に生かすことで「分かる」授業を目指す。 | 最終評価 |  |
| **環境作り** | ICTの活用の仕方を検討したり、読書活動の充実のさせ方を検討したりしながら、児童が主体的に学習に参加できる授業の実践を行う。 |  |

■　学年の取組内容

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **学年** | **教科** | **令和元年度の定着度調査（１学年を除く）や　　　　　　　　６月以降の学習状況に基づく分析** | **学力向上に向けての児童の課題** | **改善のための取組** | **追加する取組等（12月）** | **年度末の取組評価（２月）** |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| １ | 国語 | 学ひらがなや拗音・促音など言語に関する習熟の時間が短かったこともあり、文字を書いたり、読んだりすることに課題がある児童がいる。学感染予防の観点から、ペアやグループで話し合う活動についての経験が少ない。距離を取りながら全体の前で発表する機会は多かったので、そのことへの抵抗感は少ない。 | ・ひらがなの字形を整えること。・文字を書いたり、読んだりすること。・話し合う活動の機会をもつこと。 | ・文章を書く活動や文章を読む活動を通して、文字や日本語の規則などの理解を高める。・ひらがな・カタカナ・漢字など新出の内容の指導を丁寧に取り組み、習熟の機会を多く設定する。・感染症対策を講じたうえで、ペアやグループでの話し合う活動を設定し、話し合う活動の仕方を指導する。･「eライブラリ」等（デジタルドリル）を授業等で計画的に活用する。 |  |  |
| 算数 | 学具体物操作などの時間が少なかったこともあり、数に関する理解や簡単な計算力が十分身に付いていない児童がいる。学多様な考えをもつ活動については意欲的に取り組むが、考えを表すことに難しさを感じている児童がいる。 | ・数に関する理解や簡単な計算力を身に付けること。・解き方など考えを表すこと。 | ・具体物操作やＩＣＴを活用した視覚的な提示を行い、理解を深める。・計算の練習を毎日取り組む。・考え方を、言葉、図、式など多様な表現が出来るように考えを書く時間を設定する。･「eライブラリ」等（デジタルドリル）を授業等で計画的に活用する。 |  |  |
| ２ | 国語 | 学登場人物の気持ちを考えたり、主人公が考えたことを想像したりして、発表することが好きである。学絵を見せながら説明し、友達から質問をしてもらって考えを詳しくすることが好きである。学授業中の発言、自力解決等、意欲的に取り組む児童も多いが個人差がある。学漢字練習など意欲的に取り組むが定着には個人差がみられる。 | ・休業中の漢字の定着に個人差がみられるので復習を兼ねて漢字練習をする。漢字の書き順を正確に覚えること。・人の前で自分の考えを大きな声で発表すること。・自分の考えで自由に文を書くこと。 | ・新出漢字を練習する際は、短文づくりを取り入れ、語彙力を伸ばす。・発表メモをつくったり、小集団の中で発表したりして、人前で大きな声で話せるように形態等を工夫する。・毎週の日記を続け、文をかくことを習慣化させる。･「eライブラリ」等（デジタルドリル）を授業等で計画的に活用する。 |  |  |
| 算数 | 学計算問題は、よく取り組み、正確に解くことができる。学授業中進んで手を挙げ自分の意見を発表できる児童は少ない。学自力解決の際に自分の考えをもつことに課題がある。学家庭学習の取り組みは、ほとんどの児童ができている。 | ・基本的な計算問題を解くこと。・自分の考えを図や言葉などで表現すること。・習熟度の差が大きいこと。 | ・習熟度別指導を展開し、時間配分など、個の応じた指導をする。・具体物を使ったり、考えを書いたり話させたりして言語化させ、考えを表現することを支援する。・単元のよって習熟度別を行ったり、個別指導を行ったりする。ICTを活用し、視覚化する。また、繰り返し練習を徹底する。・「eライブラリ」等（デジタルドリル）を授業等で計画的に活用する。 |  |  |
| ３ | 国語 | 調観点別に見ると、すべての項目において、区平均を下回っている。特に、「読む能力」については区平均を８．８％下回っている。内容別に見ると、物語文よりも説明文の読み取りを苦手とする児童が多い。学物語文を読むことや、図書の時間を活用した読書活動に対して意欲的に取り組む児童が多い。一方で、漢字の読み書きや語彙力の差が大きく、個別指導を要する児童が多い。授業における学習規律及び家庭学習の習慣がまだ十分に定着していない。 | ・既習の漢字を使用して文章を書くこと。・文章を読む際に、叙述に即して読むこと。・文章を正確に音読すること。 | ・朝学習や放課後学習、家庭学習を活用して繰り返し漢字を練習し、定着を図る。・物語文においては登場人物が「見たこと・聞いたこと・したこと・言ったこと・思ったこと」に注目させ、場面の様子や心情の変化を適切に捉えさせる。・説明文においては、「はじめ・中・終わり」の文章構成を適切に指導する。また、「問いと答え」の関係を捉えさせ、段落ごとに書かれていることを丁寧に指導していく。・授業中や家庭学習で音読を取り入れ、正しくすらすらと文章を読む力を身に付けることができるようにする。・「eライブラリ」等（デジタルドリル）を授業等で計画的に活用する。 |  |  |
| 算数 | 調観点別に見ると、すべての項目において、目標値に届かず区平均を9～12％下回っている。特に、「数学的な考え方」については区平均に比べて12．5％低い。　内容別に見ると「1000までの数」について、区平均よりも12．5％低いことから、数の構成への理解が十分でない児童が多いと考えられる。　学学習に対して意欲的に取り組む児童が多い。一方で、基本的な知識・技能の習得に差が見られ、個別指導を要する児童が多い。習熟度別指導やICT機器の活用によって、児童一人一人の基礎的・基本的な学力の向上を図る必要がある。国語と同様に、授業における学習規律及び家庭学習の習慣がまだ十分に定着していない児童がみられる。 | ・学習内容の定着度の個人差が大きいこと。・基礎的な計算問題を解くのに時間がかかること。・題意を理解して解決に取り組むこと。・問題文の言葉の内容を正確に読み取ること。 | ・基礎的・基本的な学習内容の定着度の差が大きいため、習熟度に応じた問題を設定し、問題を繰り返し練習することでその定着を図る。・題意の理解する力に差があるため、具体物を操作したり図を使ったりして視覚化することで、内容の読み取りを支援する。・どの単元においてもICT機器を活用して情報を視覚化し、具体的なイメージをもって学習活動を進める。・朝学習や放課後学習の機会を活用し、既習事項の定着を図る。・「eライブラリ」等（デジタルドリル）を授業等で計画的に活用する。 |  |  |
| ４ | 国語 | 調活用力については目標値より1.5％高い。物語の内容を読み取ることは８％高い。一方、漢字を書くや言語に関することは5％低い。辞書を活用したり、漢字練習の時に用法を明確にしたりするなど、引き続き言語活動に力を入れていく必要がある。学心情の変化の読み取りや説明文の要旨など、教科書の叙述に基づいて意見を言えるようになってきている。ノートへの記述や作文など、話型に基づかせたり、書いたものを読み返したりして書き方を指導していく必要がある。 | ・漢字を適切に書いたり、既習の漢字を使って文章を書いたりすること。・順序立てて話したり、要点を押さえて聞いたりすること。・語彙の習得数を多くすること。・文の構造を身に付け、適切に文章に起こすこと。・論理的な思考を、文章で表現できるようにすること。 | ・図書の時間を活用して、読書に親しみ文章に慣れさせる。・朝学習や放課後学習、家庭学習を通して漢字の定着を高める。・朝や帰りの会、各学習活動の中で、話型指導、聞く姿勢の指導をし、話すこと・聞くことの力を高められるようにする。・新出漢字の書き順や用法をノートに書きまとめるようにする。・語彙力を伸ばすために、辞書を個別に用意して日常的に調べられるようにする。・文章を書く機会を増やして文章力を高められるようにする。・「eライブラリ」等（デジタルドリル）を授業等で計画的に活用する。 |  |  |
| 算数 | 調たし算、ひき算やかけ算については目標値を上回った。基礎・基本となることは身に付いていると考えられる。しかし、１００００より大きい数や時刻と時間、円と球など量の測定や図形に関して、目標値より下回っていた。普段の生活の中で、どう活用していけるのか、応用力を授業の中で付けていく必要がある。学計算処理など、課題解決方法が分かるものには、意欲的に取り組むことができている。考え方を表現する力を付けていくように、繰り返し指導していく必要がある。 | ・学習内容の定着度の個人差が大きいこと。・文章題で、問題の内容を正しく読み取ること。・時間、長さ、かさ、重さを具体的にイメージして考えること。・課題解決の方法を考えて表現すること。 | ・習熟度別の学習では、レディネステストを使ってクラス分けを行い、個に応じた問題数で繰り返し練習をし、基礎・基本の定着が図れるようにする。また、児童の実態に即して、発展的な学習もできるようにする。・問題の中に生活場面を入れることで、身近なことで習得した学習事項を活用することができるようにする。・長さや重さ等、具体的な物を操作する算数的活動を多く取り入れ、具体的なイメージをもって考えられるようにする。・単元にとらわれない、継続的な繰り返し学習を適宜取り入れる。・「eライブラリ」等（デジタルドリル）を授業等で計画的に活用する。 |  |  |
| ５ | 国語 | 調観点別では「書く能力」が不十分で、目標値からは10％、区平均からは11％下回っている。「関心・意欲・態度」については、6％下回っている。前年度との経年変化を見ると、平成30年度は区平均との開きが、わずかではあるが縮まった。学物語文の読み取りにおいては、登場人物の心情を感性豊かに表現する児童が多い。ワークテストの状況を見ても、一定の成果を上げている。ただ、言語化に関する能力、及び、読解力については、十分身に付いてはいない。 | ・授業における学習規律、及び、家庭における学習習慣を確立、定着すること。・文章構成や語句の使い方を手がかりに、筆者の主張、主題や要旨を読み取ること。・問われていることを的確に捉え、自らが伝えたいことを効果的に表現するための文法（主語、述語、接続詞等）を身に付けること。・漢字を習得すること。 | ・発問、指示を工夫し、児童同士の充実した学び合いを促せるようにする。・話型を活用し、考え・意見を発表し、交流する場を設けることで、児童自らの考えや意見を相手に伝えられるようにする。・作文の書き方の基礎・基本の指導を徹底する。・説明文の指導において以下のことを重点的に行う　　・文章構成を捉える。 　・事実と意見を弁別する。　　・主張や主題を捉える。 ・文法を理解する。　　・要約文を書く。　・話し合う活動や意見を交換する活動を取り入れ、考えを発表する場を作る。・音読を繰り返し、聞き手を意識した声の出し方を練習する。・朝学習や漢字検定を通して、漢字の定着を図る。・毎日、書く活動を取り入れ、自分の考えを表現できるようにする。・「eライブラリ」等（デジタルドリル）を授業等で計画的に活用する。 |  |  |
| 算数 | 調観点別を見ると、数量や図形についての知識・理解以外、すべての項目で、区平均を2～7％下回った。特に、「量と測定」が最も低い結果となり、区平均より28％下回った。また、平成30年度との経年変化を見ると、「図形」の正答率が14％低下する結果となった。基礎的・基本的な内容の習得が十分でないことと、学習習慣が定着していないことが原因であると推察される。学基礎的・基本的内容の徹底に向けて、スモールステップでの学習、及び、ICT機器の活用が効果的である。児童も意欲的に取り組んでいる。ただ、個別指導が必要な児童が多数いる。学力向上に向けて、習熟度別指導の充実を図る必要がある。 | ・授業における学習規律、及び、家庭における学習習慣を確立、定着すること。・基本的な知識、技能の定着における個人差が大きいこと。・問題場面を捉えたり、既習事項を活用して問題を解決したりすること。・自分の考えを式や図、言葉を使い説明すること。・四則計算に基づいた、分数や小数の計算の仕方を確実に定着すること。・既習事項の十分な定着を図ること。 | ・互いに考えを伝え合い、話し合うことにより、自らの考えや集団の考えを高め、発展させられるような授業展開ができるよう工夫する。・課題提示を工夫することによって、児童に解決の見通しをもたせ、自ら学んでいけるようにする。・算数的活動を工夫することによって、課題の発見と解決に向けて、主体的・協働的に学んでいけるような学習活動を推進する。・学習の振り返りの活動を授業の中に位置付け、成果の確認や次の学習への見通しをもてるように習慣付ける。学習内容の定着を図るため、ドリルやプリント等で繰り返し練習を行う。・問題解決型の学習を計画的に取り入れる。・問題を数直線や図等に表し、解決させる指導を繰り返し行う。・習熟度別の学習ではレディネステストを使ってクラス分けを行い、個に応じた指導をする。・朝学習や放課後学習、補習の時間等を使って、基礎・基本の定着を図る。・ノート指導を通して、理解が深まるまとめ方を指導する。・「eライブラリ」等（デジタルドリル）を授業等で計画的に活用する。 |  |  |
| ６ | 国語 | 調教科全体としては、わずかではあるが目標値を上回っている。一方で区の平均正答率と比較すると、４％程下回っている。観点別に見ると、「話す・聞く能力」は区の平均正答率を上回っているが、それ以外は平均より低い結果となっている。特に「書く能力」「知識・理解・技能」に関しては目標値、区の平均正答率のどちらも下回っている。基礎的な知識や技能の定着を図ると共に、文章を書く力の向上を図る必要がある。学意欲的に学習活動に取り組むことができる。手を挙げて、自分の考えや思いを発言する児童も多い。一方で、自分の考えや思いを書くことが苦手な児童が少なくない。また、漢字の書き取りについても個人差があり、個別指導が必要である。読むことに関しては、叙述を基に登場人物の人柄や人間関係について考えることができる。 | ・漢字や言語に関する知識・技能の差が大きいこと。・目的に応じて読み手に伝わるような文章を書くこと。・読解力の個人差が大きいこと。・内容を整理して、分かりやすく伝えること。・相手の話を聞き、正しく内容を理解すること。 | ・漢字の書き取りなど言葉に関する学習を繰り返し行い、習熟を図る。・様々な場面において自分の考えを書く場面を設ける。その中で、書き方に関して、具体的に例を示しながら指導する。。・朝読書をはじめ、読書の機会を設定し、文章の内容を正しく読み取る力を育てる。・小グループによる活動など、自分の考えや思いを話し合う機会を意図的に設定する。・聞いたことを人に伝えたり、文章に書いたりする活動を取り入れ、目的意識をもって話を聞けるようにする。・「eライブラリ」等（デジタルドリル）を授業等で計画的に活用する。 |  |  |
| 算数 | 調観点別に見ると、すべての項目において、目標値を下回っている。特に「計量や図形の技能」に関しては目標値を９．５％下回っている。量と測定と図形の領域を苦手としている児童が多くいると考えられる。学国語と同様、意欲的に学習に取り組む児童が多い。習熟度別で学習を行っているので、自分のペースで学習に取り組むことができている。一方で基本的な知識・技能の習得に個人差が見られ、個別指導が必要な児童も多くいる。ICT機器等の活用や学習形態の工夫を行い、児童一人一人の基礎的・基本的な学力の向上を図る必要がある。 | ・計算力をはじめ、基本的な知識・技能の定着の個人差が大きいこと。・文章問題に対して苦手意識があること。文章の意味を正しく理解して、問題を解くことができるようにすること。・自分の考えを整理して、分かりやすく説明すること。・既習事項の定着に差があること。 | ・基礎的・基本的な内容を繰り返し行い、その定着を図る。・話し合いや意見交換、発表を通して、児童同士が学び合える環境づくりを行う。・自分の考えを書いたり発表したりする場面を設定し、児童が目的意識をもって学習活動に取り組めるようにする。・掲示等を工夫し、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。・より効果的な習熟度学習や個別指導を行えるように、クラス分けや指導方法などを工夫する。・放課後学習等で個別指導を行い、既習事項の定着を図る。・「eライブラリ」等（デジタルドリル）を授業等で計画的に活用する。 |  |  |
| 音楽 | ・低学年：音に親しみ、楽しみながら歌ったり、拍の流れにのりながら正しいリズムで小物打楽器を演奏したりすることができる児童が多い。・中学年：きれいな歌声や音色で演奏しようとする姿が見られる。音楽的な知識や既習内容、技術の定着、思いをもって表現することに個人差が見られる。・高学年：個々の技能差が少なくなり、楽しみながら合奏をしている児童が多い。自信をもって、感じ取ったことや気が付いたことを発表したり、思いをもって表現したりしようとする児童が少ない。 | ・低学年：音楽や歌詞の内容に合わせて、身体を動かしながら表現することの楽しさを感じること。・中学年：音楽活動に対しての意欲や技能に個人差があること。豊かな表現をするための技能の習得差があること。・高学年：捉えた楽曲の特徴や感じたことなどを自分の言葉で述べること。 | ・低学年：身体表現活動を多く取り入れ、音楽に合った動きをしている児童やのびのびと表現している児童を褒め、表現することの楽しさを味わわせる。・中学年：スモールステップで個に応じた指導を行い、できた達成感を味わわせ、学習に対する意欲を高めていく。模範演奏等を多く活用し、声の出し方や演奏の仕方のイメージを膨らませる。・高学年：音楽を表す言葉を掲示し、それらを活用して自分の言葉で発表させたりする。作曲者や教師の思いを伝えることで、楽曲に対する自己のイメージを膨らませる。 |  |  |
| 図工 | ・図工の時間を楽しみにして、つくり出す活動を楽しんでいる。・低学年・中学年：時間を惜しんでつくり続けている。・高学年：取り組んだ題材は、必ず仕上げようとしている。学習に見通しをもって取り組む児童が増えてきた。 | ・立体から平面へ、平面から立体へ、見方を変えること。・図工や他教科での既習事項と、現在の学習活動を関連付けてとらえること。 | ・関連する題材(粘土で立体につくったものを絵に表す、あるいはその逆など)を意図的に配置する。・全体や個別の指導の際に、既習事項や身近な事象との関連について、常に示唆する。 |  |  |
| 特支 | ・興味・関心のある活動には進んで取り組むことができる。・新しいことができるようになることをうれしいと思っている。 | ・集中して取り組むことができる時間が短いこと。・自信が持てない活動には、取り組むことが難しいこと。 | ・活動の内容と取り組む時間を事前に明確にし、見通しをもって活動を行えるようにする。・繰り返しの学習を児童の興味・関心を生かした教材で意欲的に続けられるようにする。・スモールステップで、自信をもてるところから安心して取り組めるようにする。 |  |  |

　　　　　調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況　　　※分量は2ページ以上となってもよい。